

1 生徒の実態 (実態把握・調査結果の分析)

(1) 生徒の実態

- 1年生：大きな声を出し、積極的に英語を使おうという生徒が多い。アクティビティーにも一生懸命取り組んでいる。学習に対しても意欲的である。書くことは苦手な傾向にある。
- 2年生：男子は集中力に欠ける生徒が多く、人の話しを聞いていないことで起こるミスが多い。女子は宿題などの課題にもしっかりと取り組んでいる。はずかしがりやが多い。
- 3年生：やや積極性に欠けるが、授業や課題にまじめに取り組んでいる生徒が多く、力もついてきている。仲良くグループ学習にも協力して取り組んでいる。

(2) 調査結果の分析

- 1年生、2年生、3年生 ともに、授業には集中して取り組んでいるが、やはり、家庭学習の定着を図ることが課題だと思われる。

2 指導上の課題

- 1年生：導入期にドロップアウトせず、ついていくことが今後の学習に重要であると考え。スローラーナーへの指導や課題の出し方、個別の対応を考えていく必要がある。楽しくわかりやすい授業を心がけ、とにかく英語を使ってみようという意欲を育てたい。同時に使える語彙を増やしたい。
- 2年生：力を付けるために、家庭学習で取り組むべきことを明確にし、指導していきたい。話す活動と文法、単語力の強化を心がけたい。
- 3年生：力を付けるために、家庭学習で取り組むべきことを明確にし、指導していきたい。話す活動と長文を読み解く力をつけることが課題である。

3 授業改善の視点とその方策

・単語力を強化する指導

- ① 1・2年はビンゴの導入。発音したり書いたりを頻繁におこない、単語に対する抵抗感をなくす。
- ② 音読指導をこまめに行い、単語を読めるようにする。
- ③ 単語テストをこまめにおこない、書けるようにする。その際、意味がわかるだけでも得点に結びつくような出題の仕方を工夫する。

・家庭学習の定着をねらいとした課題の工夫 (主に書くこと)

- ライティングノートという家庭学習ノートの課題を出す。

単語練習でも、教科書本文や基本本文でも、ワークの間違った問題などを練習する家庭学習専用ノート。

単語や文法の定着を図る目的と、英文を書くことになれることを目的とする。また、家庭学習を習慣化する目的もある。

・話す活動を強化する指導

- ① 音読カード (2・3年) や暗唱カード (1年) により読むことに慣れる。

② 各学年スピーチに取り組む。

1年 自己紹介、1年の思い出、大切なもの紹介

2年 有名人紹介、私の夢、自分の町紹介

3年 行きたい国紹介、日本文化紹介

③ すらすら English で会話に慣れる。表現テストの実施

4 その他

- ・なるべく生徒の負担を減らせるように、ドリル学習と連携して課題を出せるよう工夫する。
- ・グループによる話し合いや協力の必要な課題を出す。
- ・小学校との連携を図る。(情報交換や、指導教材の共有など)
- ・英語検定試験二次対策 (希望者)